

阪急大阪梅田駅の歴史		年代	社会の動き
	箕面有馬電気軌道(阪急電鉄の前身)が、東海道線の南側に梅田駅を開業。	1910	
		1912	「明治」が終わり「大正」へ改元。
		1914	第一次世界大戦が開戦。
	(社名を「阪神急行電鉄」に変更)	1918	
	神戸本線(梅田駅～上筒井駅間)の営業開始。	1920	
	梅田駅から十三駅間の高架複々線が完成し、高架駅となる。	1923	関東大震災が発生。
		1926	「大正」が終わり「昭和」へ改元。
		1927	昭和金融恐慌が発生。
	梅田阪急ビル第1期工事が竣工し、我が国初のターミナルデパート「阪急百貨店」を開業。	1929	
	東海道線の高架化に伴い、立体交差切替工事。再び地上駅へ。	1934	
		1937	日中戦争が開戦。
		1941	太平洋戦争が開戦。
	(京阪電気鉄道と合併し、社名を「京阪神急行電鉄」に変更)	1943	
	新京阪線車両の梅田駅乗入工事竣工、梅田駅～京都駅(現大宮駅)間の直通運転を開始。	1944	
		1945	太平洋戦争が終結。
	(京阪電気鉄道を設立し、同社に営業の一部を譲渡)	1949	
		1953	テレビ本放送が開始。
		1955	高度経済成長が始まる。
	梅田駅～十三駅間に京都線専用の複線を建設し、民鉄初の三複線が完成。	1959	
		1960	カラーテレビ放送開始。
		1964	東京オリンピックが開催。
			東海道新幹線が開業。
	梅田駅移設拡張工事に着手。	1966	
	神戸線が新駅にホームを移設、新駅へ向かうムービングサイドウォークを設置。	1967	
	宝塚線が新駅にホームを移設。	1969	アポロ11号が月面着陸に成功。
	駅一体型大規模商業施設「阪急三番街」が開業、世界初の「川が流れる街」が出現。		
		1970	日本万国博覧会(大阪万博)が開催。
	京都線が新駅にホームを移設。	1971	
	阪急ターミナルビルが完成。	1972	札幌オリンピックが開催。
	(社名を「阪急電鉄」に変更)	1973	第一次オイルショックが発生。
	京都線ホームを1線増設し、9線10面のホームを擁する現在の駅が完成。梅田駅に自動改札機を設置。(北千里駅に日本初の自動改札機を設置したのは1967年)		
	阪急グランドビルが完成。	1977	
		1978	新東京国際空港(現・成田国際空港)が開港。
	大型ビジョン「BIG MAN」設置。身体障がい者用エレベータを設置。	1981	
		1983	
		1989	「昭和」が終わり「平成」へ改元。
	阪急三番街を「ミュージアムステーション」に、全面フレッシュアップ。	1990	国際花と緑の博覧会(花の万博)が開催。
	授乳室を設置。	1994	関西国際空港が開港。
		1995	阪神・淡路大震災が発生。
		1998	長野オリンピックが開催。
		2001	ユニバーサル・スタジオ・ジャパン(USJ)が開業。
		2002	FIFA日韓ワールドカップが開催。
	梅田阪急ビル建替工事に着手。	2007	
	梅田阪急ビル建替、阪急うめだ本店1期棟オープン。	2009	
		2011	東日本大震災が発生。
	梅田阪急ビル建替完了、阪急うめだ本店グランドオープン。	2012	
	「劇場空間」をコンセプトにコンコースを全面改装する「リファイン工事」完成。	2015	
	「梅田駅」から「大阪梅田駅」へ改称、大阪の中心部にあるターミナル駅であることを表現。	2019	「平成」が終わり「令和」へ改元。
		2020	新型コロナウイルスが世界的に大流行。
		2021	東京オリンピックが開催。
	梅田阪急ビルを「大阪梅田ツインタワーズ・ノース」に改称。	2022	
		2025	2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)が開催。